

夏の幼稚園保育衛生

醫學博士 廣 瀨 興

夏の幼稚園は種々の異つた方法で行はれるであらうが、今假りに臨時の林間、又は海濱の幼稚園に於ける保育上必要な衛生的注意を述べて見よう。

一般的注意

夏期は温度が高く、且つ湿度も高い故に常に吾々の周囲をよく濕氣から防がねばならない殊に雨降りなごはよく入浴せしめ、乾いた着物を與へ、室の通風に氣を付けることが大切で、夜、寢所は上の欄干を開放すること、尙、窓を夜間開放する習慣が出来れば一層結構である。唯曉方急に寒氣が襲つたり、霧の多い山岳地にては特に細心の注意が必要である。温度、湿度と氣流の三要素が適當の比例でなければならぬ。正確に云へば無風の室内の最も健康によい時は、濕球計五十六度(華氏)で、若し湿度が昇つて同六十五度になれば氣流が一分間五百呎にならなければならぬ

いご云ふ割合である。

次には榮養のこごであるが夏は一般に暑さのため淡白のものを好み、殊に好き嫌いの起り易い幼児期であるから、脂肪やビタミンAの類が缺乏して、夜盲症やフリクテン性結膜炎(ホシ目)を起し易い。魚肉や脂肪分を食べ易く調理する様苦心をする。天ぷら、支那料理、マヨネーズ、鰯の料理等適當である。海濱の生活であるならばこの際に貝類、海藻類、小魚類を好んで攝るべきである。斯る共同食のこご平素の偏食を矯正する様努力すべし。

夏期に於ける最も大切な衛生上の收穫は日光にあたるこごであるから成るべく裸體の生活をなさしめ、充分に日焦けさせ薄着の習慣の準備をすること、秋寒むごなつても厚着せぬ様せねばならない。冬期、寝るこご肌着を脱がぬ習慣の小兒は夏期より注意するがよい。乾布摩擦や冷水摩擦

は今より行ふべし。冬期、シモヤケの出来き易い小兒は充分に日光にあてること。素足で遊ばせることも忘れてはならない。

必要な醫療器具及藥品

林間や海濱の保育には其場所、方法によつて異なるが最小限度の必要なものは次の如きであらう。體溫計（示度正確を豫め確かめよ）、灌腸器（二〇瓦）、氷嚢、懷爐、綿棒、ピンセット、舌壓子、洗眼器、濕度計、繻帶、ガーゼ、脱脂綿、絆創膏、藥品としては、重曹、胃腸藥、マイクローム（又は沃度丁幾）グリセリン、オキシフル、オゾ（又はメソソレタム）ピチロール、亞鉛華、オレーフ油、ミチガール、食鹽、石炭酸亞鉛華糊、リゾール水、アルコール、アモンニア、硫酸亞鉛水（〇・二%）流動石炭酸、保土ケ谷液、芥子、硼酸等。

出發前の注意

百日咳、麻疹經過の有無を確かめ置くこと、ピロワクチン（赤痢、疫痢の豫防藥）を服用せしめ、又、ヂフテリーの豫防注射も大切である。林間海濱の場所選定はその保育の効果の上に重要な關係があるから充分豫め研究すること。

飲料水の良形で豊富のこと、平素傳染病の少きこと、危険の恐れなき處特に海岸は波の靜かな、砂濱の充分あるを好みます。林間は沼地はよろしからず、斷崖等のなきことが必要である。

應急處置

目的地への旅程が數時を要する時は必ず到着後二三回は粥食か軟食を與へること、食慾にまかせて硬き普通食を與へれば必ず一齊に下痢を發生させるであらう。列車中でのおやつは不潔になり勝ちであるから注意すること、食料水を自參するがよし。到着後は一兩日は必ず生水を與へざる様になし、少し馴れてよりは生水を與へる方がよい。

宿所の便所の清潔は大切で一應生石灰の消毒をなすべし。手洗水を充分にそなへ置くこと。

ヒキツケの時は取敢へず、リスリン水二〇瓦以上で灌腸を行ひ、その原因が不消化物の攝取のための如く略々判明する時はヒマシ油二〇瓦を飲用せしめる。頭部冷却、衣服を直ちに緩めて安靜にする。疫痢の時もヒキツケを以て發病する故注意が肝要である。疫痢の誘因は多くは不消化物の食へ合せが多い、例へば蜜豆こ天、ブラ、バナ、こ枝豆等

の如く、一種では平常は何等障りなきにも拘らず發生すこ
まが多い。今迄元氣に遊んでゐた小兒が急に脱力して生ア
クビしてゴロ／＼寝ころび元氣がなくなり、嘔氣嘔氣して
發熱するが如きまきは直ちに注意を要する。

腹痛、最も多いのは蛔蟲であるから豫めセメンエン、マ
クニンを服用せしめておくこまはよい。蛔蟲の時は食事に
無關係に又は食事の途中、突然に輕痛を訴へるのが普通で
ある。幾分、平素惡心のあるこまもある。

腹痛で殊に注意せねばならぬこまは盲腸炎(蟲樣突起炎)
ミ腸閉塞症で、前者は臍部ミ右腸骨前上棘ミを結ぶ臍棘線
の中央を壓すミ臍部の方に放散する劇痛を訴へる之をマッ
クバーネ氏壓痛點ミ稱し本症の特徴の一つである。即ち右
下腹部であつてこまに硬結を觸知するこまがある。腸閉塞
症は痛の劇烈なるこま最も甚しく、鎮痛劑の注射にても效
のなきが普通で、嘔吐、甚しきは膽汁を吐し或は糞臭吐物
を出すに至る。又、腸ガスを全く排出せず、便通もなし。
腹部は膨滿し外部より腸蠕動が判る。熱は初めは無かつた
り、有つたりする程度である。斯る時は一刻も早く開腹術
にて閉塞部を修復せねばならぬ、若し數時間放置すれば必

ず患部よりの一種の毒素のため心臟麻痺を來す。本症ミ疾
痢ミは最も急速を要する疾病で保護者の應急手當の如何が
豫後に重大の關係を生ずるのである。

日射病 豫め日中の外出炎天の遊戯の時は充分冷水を飲
ましめ置くこま、薄衣緩衣が必要である。極度の空腹を排
ける、キャラメル、チョコレート等の甘味を適當に與へる
こまも良い。海水浴の歸途、よく日射病を見るのは空腹ミ
水分缺乏が誘因である。

切傷スリ傷は程度にもよるが初め内部より漿液の出る
時期に軟膏や伴創膏で閉鎖するのはよろしからず、成るべ
くそのまゝ、マイクロクローム又は沃度丁幾塗布せるのみ
の上に乾燥消毒ガーゼを貼布して度々交換するがよし。マ
イクロクロームは近時實用せらるゝ創傷劑にて強力殺菌
發生を促進し、且つ小兒にても刺戟せず、眞に理想に近い
力ミ肉芽家庭の常備藥品である。

汗疱(あせも)紅斑小泡の時はシッカロール、亞鉛華澱粉
を撒布し、少しタグレを生ずればグリテール亞鉛華オーレ
フ油を塗布すれば快癒す、頭部、指趾の濕疹も同様である。
水蟲も、グリテールにて良い、甚しく慢性ミなればレント

ゲンを照射せねばならぬ。

ハタケ、タムシは海水浴後好發する故、よく浴後清水にて洗ふこみが肝心である、生じたなればテール膏を薄く一日一回塗布すべし。

蚤、蚊の刺傷は石炭酸・亞鉛華リニメントを塗布、蕁麻疹も同様でよろしい。但し本疹は特異質があるから苦心を要する。

火傷は初め亞鉛華オレフ油を塗布し、水泡を破らざる様にする。次で亞鉛華軟膏を貼布して漸次乾燥に導く、甚しき時、日光直接照射も效がある。

結膜炎、海水浴は多く結膜炎を生ずるから浴後清水か硼酸水にて洗眼し、毎夜就眠前、〇・二％硫酸亞鉛水の點眼を勵行するが良し。眼瞼のタゲレには五％ピオクタンニン水塗布。

耳漏豫防に海水浴後オキシフルの耳の清拭がよい。紙よりの耳掃除は危険である。中耳炎の時は耳翼の後部の骨の隆起せる部に壓痛があるのが特徴である。其疑ひのあるときは直に耳部を冷却せよ。耳下部の腫脹は耳下腺炎にし

て之もエキホス等を塗布して其上より冷罨法をする。

齒痛の時は食物の残渣を除き、一〇％位の濃き重曹水にて合嗽せしめ尙、止まらざれば周圍の皮膚粘膜に解れざる様、その齶齒孔に相當する小脱脂綿に硫動石炭酸を浸して挿入せしめる。

骨折の如きは成るべくそのまゝ副木(經木、薄き板、竹の棒等)を副へて醫師を待つ。

大出血の時はその部の心臓に近き部を壓迫して止血を試みる。その出血部をガーセ等にて壓迫繃帯をする。

人工呼吸 溺れた時は衣服を緩め水を嘔しめ、仰臥せしめ背部に枕の如きを置き、胸部を充分呼吸に便ならしめて術者は兩手掌を胸部の兩側に當て後上方に一分間二十回位の割合に壓上せしめ空氣の胸腔内に侵入する様に試む、又は兩上肢を頭上に廻轉擧上して呼吸せしめてもよい。一二時間行つて始めて效の現れることあり。心臓部を輕打して刺戟を與へる。ブドー酒服用、芥子貼布も行ふべきである。

以上は夏の轉住幼稚園に必要な醫學的知識であつてその方法の如何によつて加減し、充分夏期保育の目的を達せられ度きものである。